



海内流傳
 卷四

13
 3299
 24



13
3299
24

目録
一 琉球王位継承の事

琉球王位継承の事

大正八年
本大學出版部

目録

叢書

一 琉球王位継承の事

らるる中しよとみえせしけをばとて神の
神より王をなすいそ夜中ぐりのとよく
あまの有格と宿祝ひりくふ今も家
り二度格の上よ中りく融凍とる後
しねこそ我指を小違つて後よ未病
志まきくしと合致しとると思ひ踏まぬ
る中しよとあり近自りあつて近よまじ
と心中に事よ候ひ流る後御の居りりあま

せ満るる比たの山のふふ火の老るる
があらを中へいふ小別と山のふふ後年
の年中にいざと累のなる後地のふふ
小次一しよば王をなすあつてやゆめあり
と目とともあつてとる小流と大流
物小なり大軍のおめきさけふとて天地
流るるめく入札と跋よ新ありしと
柿原の流も流るる中しよと王平ふりて

阿比人と物もちり 碁く有し 布衣人の
流る馬とちり 柵原の所り 事り城下
下近月 大言小 王將軍 ことごとく
呼り 一う ば 何ものぞ やと 松明 ぬり
け 思ふら せむ 被 武志 がい けり くれ くれ
也 影 子 あり 子 油 志 けり 也 志 城 中 小
入 ぐ べ べ 一 あり 門 目 入 あり けり 事 だ
王 卷 美 あり けり 事 影 子 あり 兵 一 騎

大急の神あり 一 ぶ ち けり 門 志 事 ぐ
せ 目 小 入 けり 事 中 ぞと 影 あり 小 也 影
子 ち あり 事 事 の 王 命 ぞ けり 武 事
儀 と 事 事 小 也 事 松 原 の 城 志 事 事 事
儀 志 事 事 一 けり 事 軍 同 及 けり 王 儀 小
お 入 流 志 事 事 一 けり 事 大 王 志 事 事 事
せんと 影 一 けり 事 事 事 事 事 事 事 事
ひ けり 事 事 一 けり 事 事 事 事 事 事 事

りりが坂のたのちふおどろき土卒おれ
し〜改軍小及び〜おぬ〜張助情
も事り〜ととも小防さ〜り〜が坂とを
れが〜川を渡り〜王城小川入武卒候
のり方い〜知ぎり〜がとん王城と一河小卒
を〜とん車とさ〜ん新入御守りしと張助
情とゆと合せ〜一子小〜ぬととらて
筆毛城せ〜に海軍雲飛のぬ〜押考〜

と百の万改と〜〜も多と云々法正の
ゆ〜是か〜ら〜〜防ぎ〜小考子候と〜
びり〜〜の〜多〜〜と〜後〜防〜も〜世に
多〜名〜圖〜ん〜〜教日と送〜〜に〜は〜次〜を〜
も〜〜〜〜ま〜ゆ〜(備〜え〜)是〜小〜か〜ら〜れ〜多〜く
多〜深〜池〜(近〜き〜)と〜お〜ゆ〜る〜由〜亦〜も〜本〜候〜ひ
ゆ〜も〜〜の〜多〜〜〜〜小〜武卒候〜い〜本〜合〜候〜小
ち〜ら〜〜〜あ〜び〜と〜ら〜つ〜て〜吉〜紙〜〜か〜と〜亦〜港

のしあしあふふのこあふんまのしあしあふふ
倭軍のちふし補まふく西給叶は追
戦まの高城ゆあをた大王の侍のう
今まふとゆあふまふく我回一
満とくお駿とあふ地もあまふくお
いふん報給回く日本の威小駿まふ
あふしと貞とあふく和年とあふいふん
家回地まふく軍師あふしとあふ給給

幸あふしとあふく一まん防戦の御あふ
しぬの回の威とあふおふくあふ
の後の軍策とあふく和軍とあふ
あふまふん回のあふ落今はあふ
あふくあふく一回のあふ
とあふりあふく防戦あふく和年あふ
回あふ人あふ小保あふと又政あふ
あふくあふくあふくあふくあふ

王^{しん}を^らる^る智^ち徳^{とく}小^{せう}徳^{とく}し^しく^く時^じ勢^{せい}と^とる^る
比^ひ兵^{へい}と^と神^{しん}佐^さも^もら^らる^る忠^{ちゆう}小^{せう}徳^{とく}と^とし^しく^く
平^{へい}女^{にょ}の中^{ちゆう}ふ^ふら^らる^るめ^めを^をり^り國^{こく}と^と求^{もと}む^む
印^{いん}と^とあ^あら^らる^るの^のま^まし^しき^きふ^ふり^りび^びや^や糸^{いと}
傳^{でん}云^いの^のふ^ふ小^{せう}徳^{とく}し^しく^くも^もの^の年^{ねん}治^ち國^{こく}
の^の方^{ほう}便^{べん}ふ^ふも^もあ^あら^らる^ると^と改^{かひ}し^しく^くを^をし^して^て孫^{そん}系^{けい}
と^とし^しめ^め永^{えい}く^く屬^{じやく}國^{こく}の^の多^たく^くも^もん^んと^と改^{かひ}
し^しく^く小^{せう}徳^{とく}軍^{ぐん}え^えり^りに^に義^ぎと^とち^ちら^らい^い國^{こく}と^と改^{かひ}し^しく^く

入^いと^とい^いど^ども^も氏^し而^に姓^{せい}と^とら^らる^るし^しめ^めび^び乱^{らん}始^し復^{ふく}
籍^{せき}の^の義^ぎ柳^{りゆう}句^くし^しく^く小^{せう}徳^{とく}系^{けい}の^の事^じ始^し復^{ふく}
く^く函^{はふ}と^とし^しく^く王^{わう}子^しと^と初^{しゆ}を^を捕^{とら}ふ^ふし^しく^く土^と年^{ねん}
ま^まし^しく^く一^{いつ}人^{にん}も^も空^{くう}と^とし^しく^くも^も欲^{よく}も^もら^らる^るし^しく^く
孫^{そん}と^とし^しく^くの^のし^しく^くと^とし^しく^くも^も高^{かう}り^り威^いと^とを^を求^{もと}む^む
を^をし^しく^く復^{ふく}し^しく^くも^もら^らる^るし^しく^く復^{ふく}軍^{ぐん}の^のま^まと^と改^{かひ}
味^み方^{ほう}の^の徳^{とく}土^と小^{せう}徳^{とく}と^とし^しく^く大^{たい}軍^{ぐん}を^をと^とし^しく^く
孫^{そん}系^{けい}の^の義^ぎと^とし^しく^くし^しく^くも^もら^らる^るし^しく^く復^{ふく}軍^{ぐん}の^のま^まと^と改^{かひ}
(い)

さきと歌まればも王を褒めひより
威を頼んく帰せむ夫人の私とせら
玉のちやと度もじき中へ句一
しるく王を褒めとあひさ
いふととせしは法用ひあはるす
しん山を褒めとあひさ
糸四と雲の斗ひあはるす
休むふつとあひさ

城のちと歌まればも王を褒めひより
一高法ととせしは法用ひあはるす
玉四と雲の斗ひあはるす
いふ人や秋子とあひさ
何とせむのこ小法ととせしは法用ひあはるす
をいふふつとあひさ
をり休むといふととせしは法用ひあはるす
帰四と雲の斗ひあはるす

も心づき半小なりは愛育の却て
社後播ともありは是小味くも
生くは後居人と宜くせよとあり
がも形子悦び後居人心を尋り
小も源系とよもありは
の軍勢小をくしと告ぐとせ
王命と傳くは小事り
て地へ居るを愛するは是れ
也

曾のよのめとも形子小敷を味
くしと教りんとくもくも
形子の珠へ西とありは
と後居人なりは
ととく王を愛するは
て一歩地とありは
のめくも日中
を愛するは



余さしと操りし王を奪ひ去る
るに方と見えしが後々ともいふ人もあ
後々の一万余りの大軍ゆくは
元國をまきびきりて後々のめく申
中も後々小をせし中もあく後々を
しとあらしく小をりしとあく王を
兵将と合しとあく戦とあましとあ
あ破り退りんとし中余流を去りし
と

と早し和めり故にあつし
きとあまきふりてあつし
いしとあまきふりてあつし
あつしとあまきふりてあつし
軍の軍あつしとあつし
とあつしとあまきふりてあつし
ひりれとあつしとあつし
あつしとあまきふりてあつし
の

いせりれといひ河小玉を名をうみ孫とら
ふゆき行小言とく是へりれはこゝろ何
ゆきを伏しとく是へりあゆ影子と念
りり是あえとく市河小城のちちひ小
ひささちを始法を人とももに香を
たぐいとと傷をと逆れ後と終と大
王とらと王を名をよととと海物とく
河邊と名とらや和入幸ひ小實にた

とくは源とのさるおと秋小をくぐつて
れとをせよと育りれは王を名を今も骨乳
も輝く利とを妻とくは具慶の次心魂小
激しとく小ち王小波ひ和軍の跡を冠き
とく降りりれは武彦書と出逆ひ大王と上
る小情とりり小形を解退せりりれ
とも活くとくは小車とれを名を
系は軍師と名をのこやとと流別のは

あり大王に一回の君をよむを怪しく
牛久保や歌味方とありて、目録を
御平御子内、礼をよむ子のいられ
人、大隅守、今、東、淡路の城、小、大、軍
の礼、坊と、訂、せん、お、移、く、初、と、え、れ、が、
大王と、は、ひ、別、由、ひ、さ、さ、せ、中、で、と、推、移、
しく、お、ま、を、さ、ま、と、ゆ、り、せ、大王の、ひ、を、
お、ま、て、回、の、大、平、の、利、と、さ、ゆ、く、後、と、被、

う、智、珠、帝、猛、と、孫、と、く、礼、と、な、す、
く、と、あ、り、れ、と、ま、ま、な、ま、と、始、
知、人の、体、と、知、り、と、ま、く、孫、伏、せ、
く、武、志、と、大、王、孫、臣、人、と、孫、中、と、ま、の、道、
ち、法、と、と、城、中、宮、檢、せ、ん、と、考、終、り、と、
多、事、内、去、と、く、帝、の、帝、上、と、被、由、り、
つ、と、日、政、止、小、入、成、と、あ、り、と、細、人、と、孫、小、
孫、孫、小、ゆ、り、孫、小、大、王、孫、人、と、伴、と、事、



源氏物語
流傳軍務記
廿九

只
漢
一
送
人
と
目
一
一

